令和6年度　学校評価表（安来高等学校）

生徒・保護者アンケート（4択）　　4：そう思う　3：どちらかというとそう思う　2：あまりそうは思わない　　1：まったく思わない

生徒ルーブリック評価（5段階）　　レベル4：とてもできる　レベル3：かなりできる　レベル2：わりとできる　レベル1：少しできる　レベル0：全く・ほとんどできない

自己評価・・・達成指数100以上⇒評価A（目標達成）、達成指数80以上100未満⇒評価B（ほぼ達成）、達成指数80未満⇒評価C（不十分）

評価計画						生徒及び保護者評価					学校関係者評価		次年度への改善策
教育目標	育てたい生徒像	育成を目指す資質・能力		目標達成のための方策の1つ	評価指標	R5年度	R6 評価値	昨年比指数	評価	結果と課題	評価	委員からの意見等	
Ⅰ　きびしく（きびしく自らを律し）	よりよい（地域）社会の創り手として、自分自身を律し責任ある行動がとれる生徒	自分と向き合う力	 当事者意識 何事にも自分ごととして取り組むことができる	総合的な探究の時間や学校行事などにおいて生徒主体で考え取り組ませ達成感を抱かせる。	生徒が主体的に学校行事に参加したと感じているアンケート評価値（生徒No1、保護者No1）	3.6	3.6	100	A	・生徒会を中心に学校行事に積極的に活動に取り組む姿が見られた。 ・地域と関わる機会を多く持つことができ、生徒の視野が広がった。 ・地域の問題を自分自身の問題として捉え、深く考えていこうとする姿勢はやや弱い。	A	・何事にも自分事として取り組むのは大人でも難しいことです。探究活動の中で、徐々に視野を広げさせ、気づきを促せばよいと思います。 ・ホームページや学校だより等から、活動の充実ぶりが伺えます。	・次年度も学校行事や各種発表会等、生徒たちの積極性や主体性を高める場面を設定する。 ・地域の方々との対話を通して、自己の考えを深める取り組みを実施する。
					ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2.6	2.4	92	B				
			 自己研鑽力 自分自身を高めるために、もっと学ぼうとする	きめ細かな学習指導と適切な部活動によって、質の高い文武両立を実現する。	文武両立を目指した学習指導や部活動指導が行われていると感じているアンケート評価値（生徒No4・保護者No4）	3.3	3.2	97	B	・各部とも週あたり一日以上の休養日設定や試験前の活動中止等の取組みを行った。 ・試験期間中には居残り学習や遅進者指導等を実施した。 ・全国大会や中国大会で活躍した部活動もある。質の高い文武両道を目指していきたい。	B	・部活動では目覚ましい活躍がみられ、進学でも結果が伴っていると思います。指導者不足などで自主練習が多くなっているところもあるのではないでしょうか。 ・高い目標設定ができるよう、学業や部活動等で意欲の向上を図っていただきたい。 ・入学時の学力差に苦慮されていることと思いますが、引き続ききめ細やかなご指導をお願いします。	・生徒が自分の進路について主体的に考え・行動し、選択できるような機会（進路講演会、大学説明会、職業人講話等）を与え、支援する。 ・学業と部活動の両立について全体に呼びかけていく。週当たり一日以上の休養日設定や試験前の活動中止などの取り組みを継続する。
					ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2.4	2.3	96	B				
			 自己調整力 自分の活動を振り返り、目標の達成に向けて行動を改善することができる	キャリアパスポートの中でルーブリックによる自己評価を行わせ目標達成に向けて行動の改善を促す。	キャリアパスポートによる振り返りと改善に関するアンケート評価値（生徒No.6）	3.2	3.1	97	B	・令和3年度からキャリアパスポートを導入し、学期末ごとに記入する機会を設けることで自分の取組を振り返り、改善点を検討するようにしている。 ・多くの生徒がキャリアパスポートは有効だと考えているが、実際の行動改善に十分にはつながっていない。	B	・今後も継続していくことが重要と思います。生徒によって温度差があるのではないかと感じています。 ・ルーブリックの項目については見直しを図り、生徒が答えやすいものにしてはどうか。 ・キャリアパスポートについては、自分がどんなことに取り組んできたのかを振り返るには有効ですが、行動改善につなげるのには教師側のアプローチが大事であり、なかなか難しいと感じています。	・身につけたい資質能力に関するルーブリックは評価項目が多いので、見直しのための検討を始める。 ・キャリアパスポートの活用方法について研究を進める。
					ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2.5	2.3	92	B				
			 見通しを持つ力 目標達成までのプランを立てることができる	生徒の進路実現のため個々の課題と改善策について、検討会や模試分析によって教職員間で共有し、生徒と保護者に示す。	個々に応じた進路指導がされていると感じているアンケート評価値（生徒No7、保護者No7）	3.3	3.2	97	B	・生徒が自分の進路について考え・行動し、選択できるような機会を与える等、支援に努めた。 ・「個々に応じた進路指導がされている」のアンケートの数値は生徒3.3、保護者3.1である。保護者に対する進路情報の提供について更に検討する必要がある。	A	・情報の発信者側と受信者側の意識のギャップは大きい。繰り返しの発信をお願いします。 ・個別に時間を割いていただき感謝しています。 ・大学入試制度等、様々な変化が見られるなかで、多様な進路選択に適切に対応いただいていると感じています。	・生徒1人1人の学力や適性に応じた指導を行う（大学特別講座、就公模試、看護模試、セミナーなど）。 ・生徒の教科学習の実態を把握し、教科主任会などで学力向上のための対策を共有する。
					ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2.2	2.2	100	A				
Ⅱ　高く（目標と信念を高く持ち）	新たな価値の創造のために高い理想を持ちその実現に向けて行動し学び（探究）し続けることのできる生徒	課題と向き合う力	 学びに向かう力 さまざまな学習に対して、その意義・目的を考え、主体的に取り組む	生活時間調査を実施・集計・分析し、3点固定（起床時刻・学習開始時刻・就寝時刻）を呼びかける。	12月の調査で3点固定ができたと答えた生徒の割合（%）	58%	61%	105	A	・生活時間の3点固定ができたと答えた生徒は増加しているが、まだ6割程度である。規則正しい生活を呼びかけると共に、生徒が主体的に学習するように学習の意義・目的を考えさせたい。 ・生徒のルーブリック自己評価は学年を追うごとに高まっている。 1年2.0→2年2.2→3年2.7	A	・生活リズムの指導については、引き続きご指導願います。 ・生徒の自己評価が学年を追うごとに高まっているのは取組の成果のあらわれだと思います。引き続き働きかけをお願いします。 ・私自身が徹底させる意識が低かったです。同じような家庭もあると思うので、より周知が必要ではと感じます。	・学習意欲と自己調整能力を高めるために、生活時間の固定や家庭学習時間の重要性を生徒に明確に伝える。 ・生活時間固定の重要性を、生徒だけでなく保護者にも伝える機会を設ける。
					主体的な学習や学習習慣の定着に関するアンケート評価値（生徒No8、保護者No8）	3.2	3.1	97	B				
					ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2.3	2.3	100	A				
			 課題発見解決力 課題を発見し、自ら解決していこうとしている	総合的な探究の時間での課題解決型学習を改善・充実させる・	課題発見・解決に関わるアンケート評価値（生徒No9）	3.4	3.3	97	B	・課題発見解決に関して、アンケート、ルーブリックともに各学年の数値差が見られなかった。 ・「総合的な探究の時間」に行う探究学習は毎年より良いものにしようと努めている。今後も探究の質を高めていく必要がある。	A	・探究テーマは多岐にわたっており、活動の幅が広がっていて良いと思います。 ・課題発見のため、日常生活の中でアンテナを張り、探究活動につなげてほしい。 ・課題発見や調査手法なども個性がありますが、個々に応じて対応をされていたと思います。 ・多様な団体との連携による取組も進んでいるのではないかと思います。さらなる広がりに期待します。	・課題発見解決学習の実施を継続し、さらなる深化と拡充を図る。探究テーマの設定が重要なので、テーマ決めに教員が時間をかけて関わることができるようにする。
					ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2.3	2.3	100	A				
			 発信力 自分の意見を適切に伝えることができる	教科学習や総合的な探究の時間において、発表の機会を工夫し発信力と表現力の向上を図る。	発信力に関するアンケート評価（生徒No10）	3.4	3.3	97	B	・新学習指導要領を意識し、授業や学校行事など機会を捉え、自分の意見や考えを相手に伝える学習活動を行った。 ・生徒のルーブリック自己評価は「発信力」が最も低かった。発信の機会を与えるだけでなく、表現力の育成にも力を入れたい。	B	・中間発表を聴講しましたが、自信がなさそうに発表されているグループもあったので、自信を持たせるような工夫があると良いなと感じました。 ・発信力や表現力を高めるためには、学校側の取組も大切ですが、学校外の協力（発表の場の提供等）も大事かと思います。コンソーシアムの委員等、安来高校に関わる者が意識を高め、高校への働きかけをしていければと思います。	・学校行事や授業を通じて、生徒が自分の考えや意見を自信を持って表現できるような環境を整える。 ・一人一台端末の活用方法等を工夫して、表現力育成に取り組む。
					ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2.2	2.0	91	B				
Ⅲ　美しく（美しく豊かに生きる）	地域への愛着を基盤に多様な価値観を認め合う共生社会を生き抜くことができる生徒	他者と向き合う力	 自己理解・肯定力 自分を意味ある存在として肯定的に捉えることができる	HR、部活動、個人面談を通して自己理解を深めさせると同時に他者から認められる機会を設ける。	自己肯定感・自己有用感に関わるアンケート評価値（生徒No11）	3.4	3.3	97	B	・「学校生活においては、自分のことを先生や友達から認められている」の生徒アンケート数値は全学年平均3.3であった。今後も他者から認められることで自己肯定感を高める機会を積極的に設けていきたい。 ・まもなく成人になることを踏まえ、社会の一員としての自己のありかたを客観的に考える機会も必要である。	B	・ちょっとした気づきを伝えるだけで嬉しいと思うので、引き続き対応をお願いしたいです。 ・先生や友達からだけでなく、広く地域の方から、例えば探究で関わってくださった皆さんからの声がけにより自己肯定感が高まることも考えられますので、アンケート自体そこも含めたものにしてはいかがでしょうか。	・生徒の自己理解を深めるために、進路指導やキャリア教育を強化する。 ・自己評価の機会を増やし、生徒が自分自身を客観的に見つめる機会を提供する。
					ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2.3	2.2	96	B				
			 他者理解・肯定力 他者の考えを理解し、自分と違ったものでも尊重したり受け入れたりすることができる	人権に関するHRや学校行事・ホームルーム活動などを通して他者を思いやり大切にする姿勢と態度を身につけさせる。	人権に関わるアンケート評価値（生徒No13、保護者No13）	3.3	3.3	100	A	・道徳教育、人権・同和教育のそれぞれで、指導計画をもとに日常的に指導に取り組んだ。 ・日常的な指導に加え、毎学期「生活アンケート」を実施して、諸問題を早期に発見するように努めている。	A	・日々の声掛けや指導などが徹底されているように思います。 ・人権・同和教育の取組は大変大事だと思います。引き続き充実した指導を期待します。	・人権教育や道徳教育の一体的な取り組みを継続し、生徒の他者理解と肯定力を高める。 ・人権研修会やHRでの指導を継続する。
					ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2.7	2.6	96	B				
			 協働する力 意見や主張の多様性を尊重しながら合意を形成し、他者と協働できる	総合的な探究の時間だけでなく様々な学習において協働的な場面を積極的に設定する。	協働性に関わるアンケート評価値（生徒No14）	3.6	3.5	97	B	・生徒ルーブリックでは、「協働する力」が最も高かった。 ・「総合的な探究の時間」だけでなく、授業や学校行事・部活動等でも更に「協働」を意識した取り組みを実施したい。	B	・協働力を育成するための場面設定をお願いします。 ・グループ行動の苦手な生徒もいると思うので、フォローも継続してしてほしいと思います。 ・協働できる力はこれからの変化の激しい時代を生き抜いていく上で大事な力だと思いますので、引き続きその育成に努めてほしいと思います。	・総合的な探究の時間だけでなく、各教科の授業や学校行事でも生徒が他者と協働する機会を増やす。
					ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2.8	2.7	96	B				